

H28年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園
名張よさみ幼稚園

当園では、平成28年度の幼稚園学校評価として、教職員事故評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる事故研鑽を目指す非常によい機会となりました。

今年度の学校評価結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。
また、周囲の自然や子育て支援の充実など自園の長所を確認し、特色を活かした教育を行っていく為の土台を作る。指導計画を振り返り、導入の大切さを共有課題とし、子どもの持っている本来の可能性を引き出せる保育に努力する。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができるか。また、その為にどのような取り組みがなされているか。	A	園の教育方針や目標については、毎日の朝礼の際に職員全員で唱和し、共通理解に努めている。そして、常に念頭に置きながら柔軟に幼稚園教育が実践できるよう話し合っている。また、行事などの会議でねらいや目的を再確認し保護者の考えも加味しながら取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	B	日案の重要性、日々の記録、自己の振り返りを伝え、子どもの育ちや自らの保育実践につながる記録の方法を考えた。グループ討議を増やし、経験の少ない職員も言葉を出すことで、各自の理解が深まっている。チーム保育を行い、担任が入れ替わることにより教師や子どもたちの刺激となり、どのような視点をもって一人ひとりの育ちを見ていくかの良い機会となっている。副園長・主任等に相談し、適宜アドバイスをもらったことを日々の保育に即時生かしている。
3	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	B	異年齢保育の充実が成されるための環境構成、グループの作り方、教師の役割、保護者への報告を会議で検討している。特に、ねらいや関わりを保護者に伝えることで異年齢の関わりの大切さを伝え、関心を高めている。毎学期ごとにプリントを配布している。子どもたちの自然な行動を見守る中から個々の子どもの捉え方など課題を持って次に進められるよう、人的環境にも気をつけている。
4	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	子どもが主体的に生き生きと過ごし、遊びや経験を積み重ねていく保育を展開するためのプロセスとして導入、興味づけの大切さを重視している。音楽や造形、体育遊びなど身体全体を使った動的な活動と茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。
5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	B	園内研修の充実を図るため、月1回程度公開保育をし、職員の意識を高めていけるように取り組んでいる。研修会は、その時点での問題点をテーマとし自分の意見を主張できるよう、付箋を用いるファシリテーショングラフィックで発言を記録図式化し、貼った付箋を元に話し合い、次の課題を見い出して、共感し進めるものに取り組んだ。

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
6	安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。 また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	避難訓練を分野ごとに定期的実施し、災害への対応の仕方を理解し、当日の終礼で反省することにより、今後に生かせるようにしている。 アレルギー対策の充実として、給食チェックを何重にも確認した。 エピペン講習も行い、共通理解として職員全員が取り扱えるようにしている。 消防署にて救命講習を受け、AEDや園児の安全について学んでいる。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか	B	消毒の種類にも気をつけ、給食時の消毒の徹底、また、未就園保護者の来園する行事での消毒も励行している。戸外から戻った時には、手洗い、お茶うがいを徹底し習慣づけている。 園児の排泄物、嘔吐物の処理法も徹底し、園全体に感染がないよう心掛けている。 給食など食品を扱う場面では、手袋・マスクの着用を怠らないように注意を払っている。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	B	小学校や中学校との交流や、老人ホームへの訪問を行っており社会への関わりを促進している。 伊勢志摩サミットに係わるイベントや消防フェスティバルに参加し地域の人との関わりを持つ機会とした。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の大切さを再認識するとともに常に子どもの姿と照らし合わせたり、振り返りながら職員間で話し合いをする機会を沢山もち、園全体の個々の子どもの共通理解を深めたい。 日常の保育の中で、主任・リーダーは各クラスの保育内容を確認、助言する機会が多いので、毎日の振り返りを大切に次への課題を見つけていく。
2	研修・研究への取り組み	人的環境、物的環境のあり方について話し合う機会を設け、今の子どもたちに必要な環境作りを見極める必要があると感じる。又、導入の大切さを考え、工夫する力をつけていく。 グループ討議研修や実技研修を取り入れ、尚且つ、写真や映像をめぐって話し合い、何が見えてくるのか考える力を共有し、日々の保育に活かせられるよう保育の質を更に向上していく。
3	安全管理体制の整備	危機管理マニュアルの整備、防犯対策、防災用品などや未整備な点があるので改善したい。 避難訓練、救命救急講習の受講は引き続き実施し、突発的な対処もできるよう研鑽していく。 園環境の点検表などの活用利点をしっかりと把握する。
4	地域との連携	園からの情報提供や保護者や地域の方との情報交換、園行事への参加の機会を増やし、園の教育や子どもへの関わり方についての理解を深めてもらえるように発信していきたい。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。
この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されていることを期待しています。